秋田縣立圖書館藏書之印

大正六年十一月十九日第三種郵便物認可　◎（毎月一回十五日發行）

阿武郡報

第三十三號

大正八年四月十四日印刷
大正八年四月十五日發行

發行所　山口縣阿武郡役所
山口縣阿武郡萩町
第二千二百六番屋敷

印刷所　萩響海館

石川丈山の家訓

一、武士の道、日夜に忘れ候はで、何時も人の跡に成り候はぬ樣にと心掛け可申事。

一、同僚の交り、常々溫和にいたし、無禮なき樣に愨懃を可存候。併て不善人には深く交り候こと、必す無用の事。

一、戯言にも僞を申候はぬ樣に、偏に正直を第一に嗜可申事。

一、萬事に付欲すくなく、淸廉を心に持可申事。

一、人と物爭可レ命ニ停止一候無益の事ば、負けて居可レ申事。

一、物事儉約を守り候て、人の繁華美麗を少も羨み申間敷事。

鄕黨の爲めに

田中陸軍中將閣下講演

海軍第二艦隊萩港寄港に就き司令長官訪問と展墓とを兼ねて四月十三日歸省せられたる田中陸軍中將閣下は同十四日明倫館講堂に於て學生兒童靑壯年團員在鄕軍人分會員及公務員其他地方一般有力者等に對し極めて適切有益なる講演を試み多大の感動を與へられたり玆にその概要を摘載し一般の參考に資す

自分は萩町平安古の出身にして老年の中には舊時の友人

も多し、諸君の父兄にも知れるもの多かるべし。今回展墓の爲めと一には第二艦隊の萩に回航するに當りこれにも參與し且又、鄕里の若き諸君にも面會致したしと思ひ繰合せて歸萩をなせしもの也。折から今回此の處に於て講話をなすこととなりたるは誠に自分にとりては仕合とする所なり。自分がこれから噺をせんとすることは只今郡長の朗讀されし山縣老公の書翰の趣旨と合一するもの也。

第一に諸君に御聞かせ申したきことは我防長は明治維新を作りし原動力なること是也。防長人士と云へば世間にても注目せられ、肩幅も廣し。此事は吾々の先輩が作りたるものにて諸君は此の恩澤に浴して、人に誇り得るものなるも今後尚從前通り永久に之を誇り得るか否かは甚だ疑問なり、或は却つて世間の物笑になりはせぬやとお互に深く之を考へなければならぬと思ふさて今日の狀勢を述べんに、五年に亘れる兵器彈藥の大戰爭は既に殆ど終息を告げんとしつゝあるに反し、精神上の戰爭は正さに之れより開始せらるべし、此後は列國相爭ひ精神の强固なる國民が勝利を得。精神上のみならず、物質上に於ても勝利を得るなり、現に獨逸が如何なる有樣なるかを悟らざるべからず。彼等の王室は何時の間にか消えて跡方もなし、此の原因は國民の精神が不健全なるに基くものにして個人の利益のみを考ふるは國を滅ぼす基なり。又獨逸の現狀は實に吾々の手に汗を握らしむるものなり。

獨逸は如斯物質と敵國とに壓迫せられ、且つ、露西亞の精神上のバチルスが次第に國內に蔓延し、將來、國を保ち得るや否やは今日全く不明なり。現に獨逸の皇帝は他國に走つて法律によつて如何にすべきかを議せられつゝあり、露西亞も同じく、地續としては世界第一の廣き國なりしも、今では帝王もなく、法律も命令も行はれず。民は努力せずして、他人の働きて得たるものを獲得せんとし、ペトログラードの如きは殺人强盜絕えず國民は一として安全に暮し得ず、又かの我々に向つて戰ひしシベリヤの敵も此の亂民也。

朝鮮人の今の亂暴は只朝鮮人のみと考ふべからず、我々の敵は國境を越えて朝鮮に段々と入り込みつゝあり我々は諸君と共に一層の努力をなし御維新當時の成功以上の成功をなし遂げざるべからず、元來、山口縣人は精力に於て不足する所多く槪して勤勉ならず、今一つには氣力なし、即ち進取の氣象に乏し。只幸に天惠の國なるに依り他縣人程働らかずとも饑ゑずその與へ

阿武郡報
第三十三號

られたる天惠に浴するのみにて發展の希望進取の念慮更になし。維新前江戶にては長州人を長州リヤンコと呼びたりといふ。是は長州人の意氣地なき士といふ意味なり、此の嘲笑を招きたる長州人も祖先の努力に依つて、防長二州の人民が奮起し、辛苦を嘗めてかの成功をなし遂げたるもの也。或は以前の言に勵まされてなりたる結果なるやも知れず。今後此の歷史を耻かしむる人といはるゝは不面目の極なり、少くも防長は大正維新の原動力とならざるべからず。」勤王報國の中心とならざるべからず、殊に敎育の方面に於て近來長州人には人物出でず、意氣ある人に乏し。是は何人も唱ふるところ也。山口縣人は祖先の功に誇つて自ら勉むることを知らず、且つ、天惠の生活に馴れて安逸をむさぼりしなり、古語に「衣食足つて禮節を知るとか」山口縣人は「衣食足つて安逸をむさぼる」には非らざるか、かゝる有樣なるが故に一層青年團の事業が、山口縣下には必要なり、未來の文明を負ふものは青年諸君なり、精神上の勝利者となり得るものも皆青年團諸君なり。祖先の歷史を飾るもまた、青年團諸君なり。人間を作ることが今日第一の重要なること也。然らずんば他邦に劣るか、遂には過激派などに壓服されて彼等の膝下に屈せざるべからず。かくなりたる節には諸君は如何にすべき心得なるや、是は兵器によらず、我々の眞心精神に依つて防禦せざるべからず、此の目的は卽ち青年團の目的なり。

歐洲戰爭の始まるや自分は各雜誌にも執筆して「大戰の終局には國民の精神に大變動を來すものにて此の戰後の精神上の一大變態こそ我國の危機なれ」と述べしが當時一般の人々には多く省みられざりしも不幸にして今日の狀態を現出せしものなり。之れ誠に諸君の深き考慮を求めざるべからざる事なりとす。

自分は一昨年本縣に歸りて縣下青壯年團の情況を見聞する所ありしが今回更に歸省して沿道各地の情態を見多くの青壯年團が漸く形態を備へ、且多くの團員諸君が力を盡さることを聞き誠に愉快に感せり、これからは更に進んでその体力を旺にし且つ大に進取の氣象を旺盛ならしめざるべからず、成功は人の後に坐つて居ては得られず、自ら人の前に進んで辛抱せざるべからず。かゝる氣力のある人は成功し得るなり。殊に大切なるは共同といふこと也。山口縣に於て殊に然り萩に於て殊に然りと考ふ。自己の事にのみ沒頭して人を反みざる者は到底成功せず。人と共に爲すには人に讓る

の精神が大切なり。由來共同心の乏しき地方は必ず衰微す。共同の出來ざる半面には人の成功を妨ぐる嫉む故に段々と衰へ來る也。現に東京近傍にて下總の佐倉の如きはその實例あり、泉州堺は昔は大阪より盛なりしも漸次衰頽して今は昔の跡もなし。

次に在鄕軍人諸君に向つて一言すべし在鄕軍人會の創設以來自分は理事として世話をなしつゝあるに依り全國各地の情况は之を能く承知し居れり、萩は自分の鄕里なるが故によく言ひたきは山々なれども殘念ながら萩町の在鄕軍人分會は惡い方より指を屈すると第一となる。之れ實に共同を忘れたるが爲なり、自己の事のみを考へて團体を考へざる人は不幸を見るものなり、朝鮮の如きはその實例にして、支那亦然り支那は大國にして人民四億を有するも常に內亂の絶間なく、一國の體面を保つことさへ難く、他より侵蝕されつゝあり。大きくいへば國が衰へ、小さくいへば個人の不幸を招くなり。萩の在鄕軍人分會の振はざるは共同心の乏しきに基く。仕事の相談をなす時ば人に讓るの考なかるべからず、他にも分會の振はざる原因あり、即ち、將校諸君も亦此の罪を負はざるべからず、萩地程將校諸君の多きところは他になし。然して、分會の成績の上らざるは寧ろ將校諸君に共同心の乏しきを示すに非ずや。各自の意見を述べては何事も出來ず、一般會員も亦然り。或人曰く寧ろ上級將校の少き方よろしかるべしと、かく云はるゝにも多少の理あることを知る。第一將校諸君の互に讓り合ふことが必要には非らざるか、將校諸君ゟ一部の反省を求めたし。要するに共同は軍隊の生命なり、軍規は共同、節制、服從の三にて成立するものなり。日本の堅實なる軍隊の誇は是也、諸君は戰場にて、大隊あり、中隊あるを知つて自己あるを忘れ居る故、戰に勝ち得るなり。敎練の時も亦同じ。故に在鄕軍人分會に於ても同じく、此心なかるべからず。共同の力に依り自治体の圓滿を促すべし。自治体の圓滿を促すは延いては國家を旺ならしむるもの也。

御維新當時の我祖先の働きたるは如何に、自分を忘れて、國の爲めに盡したるものなるかを察せざるべからず、獨り男子といはず、女子といはず、又少年も老人も、同じく共同心を以て是に當つて、維新の大業をなし遂げたるもの也。維新當時の防長人士は又實に元氣旺盛なる人々なりき。殊に奇兵隊の如きは十七八の青年のみなり。今日の青年諸君に當時の元氣の存するや

否や。之を要するに山口縣の大缺點は共同心の不足なり。萩の在鄕軍人分會の報告を見るに遺憾ながら健實なる發達の氣運に向ひつゝあるの報告を見ず。是が延いて青年團員諸君にも及ばざらんことを患ふるものなり。過去を口にするものは過去の人なり。人は未來を語らざるべからず。青年團語君は未來を語り、未來を見ざるべからず。青年團員諸君は他の誘惑に誘はるることなく、智育に勵み德育に勵みて一個人を完成せよ。延いては父兄の安心となり、一國の隆盛となるもの也。諸君は、明日軍艦を見て肉湧き血躍るの感を起すこととなるべし。此の力に依つて日本帝國が護られ、又、他國との貿易も交通も、保護さるるなり。又富國の基も開き得るなり。海軍の仕事は實に愉快なる仕事なり、職務は一命を君國に捧げて國家を守る職なり。由來、山口縣は陸軍人は多きも海軍軍人に乏し。この點は多年有志の患ふるところ、幸にして近來多少の增加を見るに至り防長出身の者にして佐官級の人々今日中央にて腕を振ふ人の多きを加ふるに至りたるは衷心快感を覺ゆる所にして今後陸軍のみならず、海軍の方面にも大ひに盛に有爲の軍人を輩出したきもの也。諸君が艦隊を見て如何なる感を惹起すならんか。自分はこれ迄如何にかして、是を寄せたしと思ひ居たりしが幸に山屋司令長官は自分の親友、兩艦の艦長は山口縣人あり、今回この宿望を遂げて萩の地に艦隊の寄港を見るに至りたるは誠に愉快とする所也。歡迎が愉快なるに非ず、是を眺むべき諸君が大に元氣を起こす、其の事に愉快を有するなり。

青年團の事については山縣老公と同じ考を有する自分の腦裏には鄕黨を忘るる能はず。自分も人の世話になつて、今日の地位に進みたるものなり、自分も過去は諸君の如く勉びたるものなり。』

自分は諸君の知る如く當地の傘屋の一少年なりしもの也。昔は町役場の給仕をなしたる事もあり。又小學校敎員の席末をも穢したる事あり。十六歲のとき支那に行くの目的にて當地を出で、途中、船の行き違ひより長崎に足を止むるに至り、此所に於て人の食客となり更に敎導團に入り、次いで士官學校に入學をなしたるもの。過去の自分を思ふ毎に、諸君を何とかして成功させたしと思ふの念誠に深く自分の幼少の折の事に引きくらべて、かくは考ふるなり。」今度の艦隊の來るについても、如何にかして諸君に奮起して貰ひたしと思ひて多少の勞もとりたるなり。軍艦を觀たならば「自

分も亦」と腕まくりして頂きたきもの也。是こそ實に活きたる學問なり。諸君は志を立てて其の目的に一歩を進めなば飽く迄もその志を貫徹せざるべからず、これこそ立身、出世の最も大切なる要訣なり、右を眺め左を望む者は、遲疑逡巡の人なり。軍人にて云へは、劣敗者なり。此の點は深く青年諸君の考慮せざるべからざる事也。今日は時間も追々切迫し來りたる故、之にて御暇乞とせん。亦後に參りし節御面會致さん。其時は立派なる人とならるることを喜びとして待つ。年月を經るに伴ひ必ず向上進歩して役に立つ人となるべし。人はいつまでも呉下の阿蒙たるべからず。充分身体を丈夫にして益々國家の爲勉勵されんことを切望して止まざる也。(完)

◎庶　務

□町村長集會

四月十四、十五日の兩日町村長集會を開催し郡長より指示したる事項其の他左の如し

指示事項

一、兵卒休暇規則に關する件
　農業の爲休暇を許可せらるるは本年に限り植付時期のみにして休暇歸省の資格あるもの左の如し
　1家庭貧困にして人手なく他人を雇傭し難き者
　2辛うじて他人を雇傭する資力あるも地方の情況に依り勞働者缺乏の爲め特に本人を要するもの
　3休暇歸省日數は一年を通じ往復を除き二週間(慰勞休暇の日數は其の以外とす)以内とし之を二回に分つことを得
　4順位は歸省助力を要する程度に依る
　家庭の狀況困難の程度に依り其の一部のみ歸省許可せらるる趣に付嚴密に調査し情實に流るる等の事なきを要す

注意事項

一、徵兵檢査及簡閲點乎に關する件

協議事項

一、招魂祭に關する件
一、軍隊慰問に關する件

希望事項

一、招魂祭に關する件
一、在郷軍人分會に關する件
一、町村役場兵事に關する件

□戸數割附加税納税狀況

戸數割附加税を四期に徵收する町村に於ける本年二月納期の成績左の如し

町村名	滯納人員	滯納金額（円）	
明木村	｜	｜	
吉部村	二		四五〇
紫福村	一	五	九二〇
大井村	｜	｜	
奈古村	｜	｜	
宇田郷村	｜	｜	
福賀村	二		九三〇
須佐村	｜	｜	
彌富村	一	四	六五〇
小川村	三	二	九四〇
計	九	一四	八九〇

◎學　事

□小學校長集會

四月八日より同十日に至る三日間各小學校長を郡會議事堂に招集し郡長より指示したる事項其の他左の如し

指示事項

一、教育の振興に關する件
　教育の振興を圖り之れが充實を期するは國運を隆昌にし民福を增進する上に於て其の源泉たるべきは今更喋々を要せざる所なり謹んで惟るに明治天皇夙に臣民の教育を軫念あらせられ明治五年學制を頒布して教育制度の基礎を樹て給ひ尋で明治二十三年教育に關する勅語を下賜せられて帝國教育の大本を定め給ふ
　今上陛下亦深く叡慮を教育に注がせられ先帝の遺緒を紹述して益々其の振興を圖らんとし給ひ大正四年優詔を文部大臣に賜ひ今年亦高等教育機關完備の思召を以て　御内帑金壹千萬圓を下し賜ふ
　聖旨深遠國民誰れか感激せざるものあらんや局に膺るもの夙夜黽勉最善を盡して以て教育の徹底に努力

し聖恩の萬一に奉答せざるべからず各位宜しく其の旨を體し其の町村教育の振興を圖ると共に特に左の諸點に留意し其の普及徹底に盡力せられんことを望む

一、兒童の學力向上に努力すること

二、實業補習學校の施設を完ふし生徒の就學、出席を極力奬勵すること

三、小學校理科教授に關する設備を完ふし科學的智識の涵養に一段の力を加ふること

四、小學校に於ける教辨の整備及體操器械の充實を圖ること

五、小學校教育の內容改善を期し修養研究につき一層の努力を加ふること

六、上級學校入學志望者を增加し殊に高等小學校進學を勸奬し小學校義務教育延長に資すること

七、小學校兒童及青壯年團員の體育、氣育に就き一層の注意を加へ成績の向上を圖ること

八、圖書館の設置及內容充實を圖り讀書力の養成に努むること

九、小學校兒童の皆就學皆出席を期すること

一、教授訓練の改善に關する件

學校教育の內容改善に於て第一に努むべきは教授訓練の改善にして近時同方面に於ける理論的の研究は益々微に入り細を極むるものありと雖も之が成績効果の如何を仔細に吟味せんか其の聲の大なるに比し結果の之に伴はさるもの多きは頗る遺憾とする所なり蓋し從來に於ける研究は徒らに新思潮に眩惑せられて其の根本精神を深究することなく學說の送迎に忙殺せられて之が應用適用を怠り深く教育の事實と成績とに鑑みて改善の方策を確立せざるものあればなり各位は能く此の點に留意し新を衒はず舊に泥まず確乎たる識見を以て指導の任に當り其の實績の向上に努力せられんことを望む

一、體育衛生の改善に關する件

近時體育に關する研究、稍々見るべきもののなきにあらずと雖も兒童の躰質躰格を詳細に理解せず漫然之が施設を爲すが如きは遺憾とする所なり學校衛生亦實際に輕視せられ前途改善を要するもの尠からず將來父兄保護者、學校醫等と聯絡を取り兒童各自の健康狀態を理解し周到なる注意の下に積極、消極兩方面に對する施設を全からしめ健康の增進、躰位の向上に努力せられむことを望む

學校に於ける躰育上の設備につきては前に云へるが如く能く管理者と協議して速に其の完成を期し學校醫の待遇を厚くして學校衛生の改善に意を注がしむべく適切の措置を講ぜられたし

一、民風作興と勤儉貯蓄に關する件

勤儉貯蓄に關しては舊臘本縣告論第一號を以て縣民に告論を發せられ爾來之が指導勸奬に努めつつあるを信するも今般亦內務大臣より民風作興に關する訓令を發して戰後に處すへき國民の緊張を策勵せらる本郡幸に各町村共報德會の設置せらるありて之れが目的を達するに利便尠からざるを認む各位宜しく地方有志と共に益々本會の興隆に力を致し以て之れが勸奬指導に努め其の趣旨に副はんことを望む

一、青年團の改善に關する件

本郡各町村に於ける青年團は既に其の組織の改造を了し今や着々改善の歩武を進めつつありと雖も內容の充實未だ完からざるものあるが如く之を三大綱目實施の成績に徵するに指導者今後の努力に待つべきもの頗る大なるものあり各位は宜しく之れを激勵し其の實績を擧ぐることに努められんことを望む

一、婦人會設立に關する件

地方風教の改善を圖り民心民風の作興を促して國利民福を增進せんとする上に於て婦人會の設立を企圖し之が指導に努むるは誠に喫緊の事に屬すべき所なりと信ず郡下町村中には既に婦人會を設置して之が指導を怠らざるものなきにあらずと雖も尙ほ其の數甚だ少く地方開發の將來に鑑み殊に遺憾なき能はず依て各位と共に之れが設立指導に勗め青壯年團のそれと相俟ちて其の目的を達成するに至らんことを望む而して其の設立なきものに至りては町村長に協議し可成本年六月二十五日までに設立を策し其の實績を擧ぐるに努力せられんことを望む

一、各種團体史編纂に關する件

郡の事業として郡史を編纂し町村亦町村史の編纂を企劃し團体史編纂の機運漸く旺ならんとす各位は更に其の町村內に於ける神社、農會、產業組合、青、壯年團在鄉軍人分會等の團体に就き團体史編纂の事を慫慂せられ速に之れが編纂を完了すべき樣盡力せられんことを望む

一、兒童學力向上に關する件

兒童の學力につきては各位の熱心なる努力に依り漸次向上の域に進みつつあるべしと雖も之を各郡に於

ける中等學校入學合格者の歩合に徵するに向は遺憾の點なき能はす各位は部下職員を激勵して成績の向上に努めらるると共に左記事項につき注意せられんことを望む

一、尋常科第六學年及第五學年の學級に優良敎員を配置すること

一、六學級以上の學校にして補助敎員を設置せざるものは該敎員を設置すること

一、校長は學級巡視を密にすると共に度〻學力調査を施行せられたきこと

一、中等學校入學志願者には特に學年開始と共に科外敎授に努力せられたきこと

注意事項

一、大正八年度郡事業施設に關する件

一、訓示又は指示、注意事項の處理に關する件

一、上級學校生徒志願者獎勵に關する件

協議事項

一、共同視察に關する件

一、軍艦拜觀に關する件

口頭注意事項

一、學校の保護取締に關する件

一、成績考査に關する件

一、學校と家庭との連絡に關する件

一、讀書研究獎勵に關する件

一、實業補習學校敎材に關する件

一、敎育會費赤十字社費愛國婦人會費完納に關する件

一、全郡公租完納の實績貫行に關する件

一、聯合報德會と部落學藝會に關する件

一、敎員旅行願届及病氣缺勤快復届に關する件

口小學校兒童就學及出席獎勵金下附

小學校學齡兒童にして就學出席の成績佳良なるもの若くは就學出席進步の狀況顯著なる町村内部落に對し及家計困難の兒童にして一學年間出席佳良なる者に對し郡長より獎勵金を下付せられたるもの左の如し

（獎勵金參圓宛下付）

椿鄕東分村　後地　椎原

椿　村　第七區　第四區　第九區

山田村　藤ク瀨

三見村　中山

明木村　角力場　笛吹

佐々並村　開作

川上村　横坂

篠生村　大野　見附　三谷

生雲村　藏目喜字町

地福村　懸　名草

德佐村　上市　西目谷　畠田

嘉年村　神田　井戸

高俣村　第十三部

吉部村　佐波木

紫福村　小野田

大井村　坂本　門前

奈古村　市　東方

宇田鄕村　葛籠

福賀村　第十區

須佐村　蟶潟

彌富村　大田　及谷　第四區

小川村　第十六區　海坂

田万崎村　松崎

六島村　東組

見島村　東區第二組　西區第一組

（獎勵金壹圓宛下付）

椿西校　尋三　佐伯智枝　尋五　佐伯ミヨコ

長高校　尋三　水津定雄

篠目校　尋三　小村秋穗　尋五　小村トキヨ

生雲校　尋六　吉山萬藏

德佐校　尋三　中島キクヨ

龜山校　尋三　原　傳一

高俣校　尋四　淸水重雄

吉部校　高二　岡　龜三郎

福川校　尋六　西村タマヨ

奈古校　尋四　寶豆紀萬砂子　尋四　岡村助一

育英校　尋六　角野チヨ

彌富校　尋五　田尾末槌　尋五　安野富正

鈴野川校　尋四　林　アキ　尋四　林　正一

多磨校　尋五　佐々木義夫

相島校　尋三　藤本千代亮

口阿武郡教育會懸賞課題當選者實行狀況

「一金壹圓を與へなば如何に有效に利用せんとするか」

との懸賞課題當選中金壹圓の懸賞金を受領し答案に對し之を實行したる者の狀況左の如し

紫福村青年團員　藤山　一正

一金拾參錢也　洋紙四帖及表紙代
洋紙四分の一型の「一善日記帳」を製作し一月五日より記入す

一金九錢也　郵便はがき六葉を求め昨年入營せし本村出身の軍人へ慰問狀を出せり

一金拾七錢也　野球用ボール一個を買求め友人と共に野球をなす

一金參拾錢也　佛壇の金襴打敷大巾一尺を求めたり

一金參拾壹錢也　「新報知」購讀料及振替手數料
雜誌「新報知」を半ヶ年分購讀をなす

附記　應募論文中に烟管購求の一項あるも實行に先ち母死去せしため此の項を「はがき購入軍人慰問」に代へたり

◎産業

□山葵販賣狀況

本年三月嘉年村農會に於て同村生產の山葵を兵庫縣農會神戶販賣所へ向け發送せる狀況を同所山口縣農會出張所より成績を回答し來れり其の狀況左の如し

記

種別	數量	販賣數量	單價	代金	諸掛
一號	三、四五〇メ	二、四〇〇メ	一メ 三、八〇〇圓	九、一二〇圓	四、三七〇圓
二號	二、四四〇	一、六〇〇	四、〇〇〇	六、四〇〇	
三號	二、六〇〇	一、六〇〇	四、二〇〇	六、七二〇	

1、品質良好にて神戶市場向として良好なり
2、今回送附の分は途中日數餘分に要したるを以て乾燥の爲め目減多かりしなり
3、一箱內に詰込不充分の爲め一層の乾燥を招き爲めに貳割の目減を生ずる處を三割の目減を生じたり
4、山葵は普通蔬菜の如く直ちに販賣し得ず五百匁又は一貫目宛小賣的に掛け渡すを以て普通品より目減多く且つ販賣に手間取るを普通とす
5、山葵の栽培生育稍盛となりて葉の大なるもの出ずる時は下葉より切り取り僅かに葉を殘すこと
6、出荷の際充分水分を施すこと
7、直接當所宛送られたる爲め普通配達料三個にて二十錢餘なるに九十錢を要せられたり今回は見本として送られたるを以て不得止も青物及柑橘其他は總て青物問屋に托し嚴重監督の下に販賣し居るを以て豫め送り先を照會せしめられたる直接青物問屋に送れば僅少の配達料にて足る
8、今後の山葵に對する希望
イ、今後は餘りに葉を附せざること
ロ、箱內に充分ゆすり込み空隙を有せざる樣したきこと
ハ、出荷の際充分の水分を與ふること
ニ、出荷は二三箱宛一週間位の間を置きて連續的にせられたきこと是れは鮮魚の安き場合豐漁の場合は山葵の需要多く賣行良く價格高騰するも之れに反する時は價格下落するを以て高き時と安き時と何れも販賣し得て其の平均を取る爲なり
9、九今後の送り先は「兵庫驛三笠運送店扱湊川市場幸商店」とすること

□深耕講習會

三月七日より同十四日に至る八日間郡內彌富村外六ケ村に於て山口縣農會主催に係る深耕講習會を開催せり講師は縣農會小林繁一氏にして其の狀況左の如し

月日	村名	講習人員	附記
三月七日	彌富	三〇	小學校兒童參觀せり
同九日	宇田郷	五	(見學者多數ありしも雨天の爲實習者少し)
同十日	奈古	一〇	同上
同十一日	大井	四〇	見學者多數實習せり
同十三日(午前)	紫福	五	同上
同十三日(午後)	福川	一〇	(見學者多數ありしも實習者少し)
同十四日	椿	三〇	見學實習共に多數なり

◎兵事

□第二艦隊萩港寄港

▼艦隊來萩の由來　我防長二州よりは海軍部面に比較的人材の輩出少なく且つ各地に亘り海事思想の普及徹底未だ十分ならざるの感あるは先輩有志と共に遺憾とせる所也田中陸軍中將を始じめ在京有力の人々常に深く之を憂ひてその對策を講するに汲々とし何時かは縣下樞要の地

に大艦隊の寄港を仰ぎ實物教育の方法に依りて海軍將校志願の氣風を振作し海事思想の普及發達に資すべく劃策せらるる所あり幸にして第二艦隊司令長官山屋中將閣下は先輩有志の希望を諒とし部下艦長出身地を訪問するの趣旨に依り萩港に第二艦隊全部を率ゐて入港せらるべきこととなり萩地年來の希望亦漸く之が實現を見んとするに至れり

▼歡迎委員の上京　曾ては萩港に一、二軍艦の入港せしことありしも大艦隊の寄港せることと未だ曾てその例あるよあらず今回第二艦隊の來萩一度傳へられその確報を得るに至るや萩地一般の士民感興大に湧き何れも滿腔の赤誠を披瀝して之を迎ふべく專ら歡迎準備に熱中するに至れり是より先き當地出身の霧島艦長勝木海軍大佐及海軍教育本部附藤井海軍中佐より屢書信を送りて艦隊歡迎上に關し周到なる注意を與へ毛利五郎男爵及田中陸軍中將の兩閣下よりは特に此擧をして最も有意義たらしむべく懇篤熱心聲援せらるる所あり歡迎事務の進行上當地と在京有志との間能く意志の疏通を圖り且つ歡迎準備に就き諸般の打合をなすの要あるに依り岡村阿武郡長小倉萩町長篠原海軍大佐當地歡迎準備委員を代表して三月七日上京せり爾後滯在數日各方面を歷訪して諸般の打合をなし歡迎資金に就きては毛利五郎男爵田中陸軍中將の兩閣下を始じめ中村芳作藤井謙介西村秀造の諸氏より熱心なる聲援を與へられ公爵毛利家を筆頭に當地出身の富豪より左の如く寄附金釀出の申込を受け之に萩地方釀出の金員を加へて歡迎方法の徹底を期すべく諸般の準備を進行せり

寄附者と其の金額

金額	氏名
金貳千圓	公爵毛利家
金千五百圓	男爵藤田平太郎
金千五百圓	久原房之助
金千圓	藤田文子
金五百圓	賀田金三郎
金五百圓	田村市郎

▼艦隊歡迎方法と海事思想鼓吹奬勵方法　歡迎準備委員上京在京有志との打合をなしたる後屢歡迎委員會を開きて決定せし歡迎方法及海事思想皷吹奬勵の方法左の如し

艦隊歡迎方法

一、萩垰内一町三村に於て艦隊歡迎會なるものを組織し萬

般の準備を整へ歡迎の誠意を致す

一、艦隊入港出港に際しては煙花十七發を打上げ司令長官に敬意を表す

一、艦隊入港に際しては、能美少將、岡村阿武郡長、瀧口阿武郡會議長、北川聯合分會長、篠原海軍大佐、小倉歡迎會委員長、厚東、平野、大田各副委員長、岩城警察署長、岩田中學校長、中村萩實業組合長、等旗艦榛名を訪問して山屋司令長官に挨拶を爲す

一、軍艦訪問に際しては艦隊歡迎の辭を山屋司令長官に呈し盆栽、花卉、繪葉書等を贈り尚下士卒に對しては酒樽、繪葉書及萩名産蒲鉾、夏蜜柑若干を贈呈す

一、准士官以上の上陸者百貳拾名を壽座歡迎會に招待し尚司令長官幕僚艦長の一行を越ヶ濱御茶屋の池に案内をなす

一、下士卒に對し特に朝來浴場を開設し隨意入浴の便を計り尚指月公園松陰神社境内及都波岐神苑に休憩所を設け茶菓の接待を爲す

一、軍艦乘組員に對し萩峠内史績地圖及名所案内圖を贈り尚棧橋附近に萩峠内大地圖を掲揚し遊覧の便を圖る

一、峠内各戸國旗を掲揚し夜間は軒提灯を掲燈し市中の裝飾は萩實業組合に於て熱心其の設備を爲す

一、萩港碇泊中軍艦よりは夜間探照燈を點し景趣を添へらるへし萩歡迎會は之に應酬すへく十五六の兩日共夜間煙花數十發を打上げ一段の光景を添ふるに努むへし

一、地方物價暴騰し又は商人をして暴利を貪らしむることなき樣嚴重取締を爲す

海事思想皷吹奬勵方法

一、軍艦拜觀に付ては最も周到なる注意を加へ可成多數の學生、兒童其の他地方民の拜觀をなさしむる爲め特に下關より牽船三艘胴船十數艘を雇ひ入れ一日一萬二千人以上の拜觀をなさしむへき計劃を立つ

一、碇泊中縣よりは特に水上警察署汽船を廻航せしめ取締りに任せらるること

一、菊ヶ濱附近便宜の地點に乘用棧橋を架設し切符制度を用ゐ乘船拜觀に混雜なからしむ

一、軍艦碇泊中司令長官幕僚艦長の一行を萩中學校高等女學校及明倫小學校に來臨を請ひ學生、生徒

兒童に對し一場の講話を願ひ海事思想の皷吹奬勵を圖る明倫小學校にては萩峠内小學校上級兒童及商業學校、修善女學校、實業補習學校生徒等を參集聽講せしむ

一、軍艦碇泊中兩日共軍艦拜觀後夕刻迄特に設備せる明倫小學校々庭音樂堂に於て海軍々樂隊の演奏を聞かしむ

一、軍艦萩港入港より出發に至る迄の艦隊の動靜乘組將士の行動其の他勇壯活潑なる當日の光景を賀田金三郎氏經營の天然色活動寫眞株式會社の熟練ある技師に依り之をフィルムに映寫し軍艦出發後萩峠内を始め郡内各町村に於て教育、産業振興に關する映畫を加へ活動寫眞を行ひ海事思想の皷吹及一般地方開發に資せしむ

▼艦隊入港出港時日と投錨地點

一、入　港　四月十五日午前七時二十分

一、出　港　四月十七日午後一時

一、投錨地點　萩港外看音喰合瀬の西南方菊ヶ濱海岸を去る約二十町

▼來萩軍艦名　來萩の軍艦は第二艦隊の全部の筈なりしも軍艦平戸及驅逐艦三隻は途中大津郡仙崎に入港し驅逐艦二隻は佐世保軍港より横須賀軍港へ直航し萩に入港せるは旗艦榛名、比叡、霧島の三艦なりとす因に大津郡仙崎に入港せし驅逐艦濱風、磯風、天津風、の三艦は本隊に合する爲め四月十七日午前十一時萩港に來りて約一時間碇泊の後本隊と共に出港せり

▼軍艦拜觀日時　軍艦拜觀を許可せられたる日時左の如し

四月十五日午前九時より午後四時迄
四月十六日午前九時より午後四時迄
四月十七日午前七時より午前十一時迄

▼軍艦入港　四月十五日午前七時十五分雨中遙に薄く黑煙の上るを見るや煙火を揚げて入港を報ず菊ヶ濱一帶を塡めたる群集齊しく血湧き肉躍りて歡聲喜語盛に起る午前七時二十二分榛名、比叡、霧島の三艦は横陣を成し雨を衝いて威風堂々其の勇姿を現はし大山の如くゑして海を蔽ふの偉觀筆紙の盡す所にあらず午前七時二十五分豫定の位置に投錨す

▼艦隊訪問　軍艦入港を報ずるや歸省中田中の陸軍大臣、今村知事代理、岡村郡長、瀧口郡會議長、小倉歡迎會長、厚東平野大田各副委員長、篠原海軍大佐、北川聯合分會長內田陸軍中佐、岩田中學校長、岩城警察署長、等汽艇防長丸を疾航せしめて旗艦榛名に山屋司令長官を訪問し左記歡迎の辭を呈し尙目錄を添へて左の物品を寄贈せり

歡迎ノ辭

肅ンデ第二艦隊司令長官山屋中將閣下ニ啓ス閣下誕ニ閫外ノ大任ニ膺リテ海國ノ重鎭ヲ督セラレ艦隊ヲ統率シテ邊要ヲ歷巡セラレ萩ノ地實ニ霧島艦長勝木大佐ノ鄕里タルヲ以テ爰ニ光臨ヲ辱ウス時維レ陽春萬象啓發スルニ際シ吾ガ萩峠内一町三村ノ居民ハ鶴首翹望已ニ久シ今ヤ貴艦隊ヲ迎ヘテ歡天喜地抃舞踊躍ノ至リニ堪ヘザルナリ謹ミテ考フルニ皇國ノ武威已ニ四表ニ轟キテ士氣ノ練養益々忽ニスベカラズ歐洲ノ戰局漸ク和解ヲ告ゲテ國防ノ策畫更ニ急ナルモノアルベシ顧フニ長門ノ國タル西陲ノ衝ニ當リ沿海居民ノ水漬屍ノ殊績ハ之ヲ古戰史ニ徵スベク降リテ慶長ニ迨ビ毛利輝元卿父子治城ヲ吾ガ萩ノ地ニ奠メテ長藩ノ基ヲ開キ本支累世士氣ヲ太平ノ間ニ養フコト茲ニ二百六十年其ノ蘊蓄シテ發セルモノハ實ニ天保以來勤王ノ績ナリトス然リト雖モ飜ツテ宇内ノ大勢ヨリ之ヲ察スレバソノ所謂勤王ノ績ハ特ダ其ノ機ノ先兆ノミ何ゾ之ヲシテ大ニ啓發擴充セシムルノ時ナカルベケンヤ夫ノ絕海ノ勇ヲ鼓シテ怒濤ヲ衽席ニシ鵬程ヲ跬步ニシ艨艟ヲ五大洋ニ馴セテ祖國ノ障屛ト爲シ以テ國家將來ノ急ニ應ズル者ノ如キハ誠ニ此地ノ當ニ速ニ且ツ多ク溫釀育成スベキ所ナリ抑百說千喩ハ一提示ノ親切ニ如カズ今此地ノ居民亦何ノ幸ゾ方ニ親シク貴艦隊ノ雄大ヲ仰ギテ大帝國軍威ノ盛ナルヲ觀ルコトヲ得タレバ一旦奮發シテ報效ヲ期スルノ切ナルベキハ豈尋常席間講讀ニ獲ルモノノ比ナランヤ是ニ於テカ吾ガ舊藩主毛利公爵及ビ此地出身ノ有力者皆コノ鄕里空前ノ光榮ニ對シテ居民簞壺ノ供ヲ補ヒ以テ海國士氣ノ擴充ヲ圖リ千里心ヲ一ニシテ貴艦隊ニ敬意ヲ表セリ是特ニ閣下ニ陳述セザルベカラズ所ナリ某等不敏ナリト雖モ上述ノ所見ト關係有力者ノ聲援トニ藉リ竊ニ共ニ期誓スル所アリ當ニ此機會ヲ以テ益々地方士民ノ海事思想ヲ皷舞シテ其ノ未ダ發セザル所ヲ發展セシムルコトヲ勉ムベク當ニ海軍將校若クハ兵士タラント願フ者ヲシテ益々多カラシメンコトヲ勉ムベシ然シテ後ニ始メテ貴艦隊光臨ノ盛意ニ答ヘ以テ歡迎ノ微衷ヲ全ウスルニ庶カラン冀クハ閣下之ヲ諒トセラレンコトヲ

大正八年四月十五日

阿武郡報
第三十三號

萩歡迎會委員長
從五位勳三等功四級　小　倉　信　恭

贈呈目錄（旗艦榛名へ）

一生　花　　六　束
　司令長官閣下　參謀長閣下　艦長殿　士官室　士官次室　准士官室へ
一盆　栽　　參　個
　司令長官閣下　參謀長閣下　艦長殿へ
一茶　器　　貳　組
　司令長官閣下　參謀長閣下へ
一酒　盃　　八拾五箱
　上長官以上へ貳個入貳拾箱准士官以上へ壹個入六拾五箱
一繪葉書　　千四百貳拾五組
　准士官以上へ五拾枚入八拾五組下士卒へ三枚入千參百四拾組
一麥　酒　　參　打
　宴會當日在艦准士官以上へ
一日本酒　　五　樽
　下士卒全員へ
一蒲　鉾　　貳百九拾枚
　宴會當日在艦准士官以上へ貳拾枚下士卒全員へ貳百七拾枚
一夏蜜柑　　拾　五　籠
　宴會當日在艦准士官以上へ壹籠下士卒全員へ拾四籠
一萩史蹟地圖附說明　貳　拾　枚
一案內地圖　　八百五拾枚
一新　聞　　七　種
　東京報知、大阪朝日、大阪毎日、防長、長州、關門日日、馬關毎日、日々各五拾枚宛

贈呈目錄（比叡及霧島へ各別）

一生　花　　四　束
　艦長殿　士官室　士官次室　准士官室へ
一盆　栽　　壹　個
　艦長殿へ
一酒　盃　　七拾貳箱
　上長官以上へ貳個入拾貳箱准士官以上へ壹個入六拾箱
一繪葉書　　千貳百參拾五組
　准士官以上へ五枚入七拾組下士卒へ參枚入千百八拾五組
一麥　酒　　參　打
　宴會當日在艦准士官以上へ
一日本酒　　五　樽
　下士卒全員へ
一蒲　鉾　　貳百五拾五枚
　宴會當日在艦准士官以上へ拾五枚下士卒全員へ貳百四拾枚
一夏蜜柑　　拾　參　籠
　宴會當日在艦准士官以上へ壹籠下士卒全員へ拾貳籠
一萩史蹟地圖附說明　拾　五　枚
一案內地圖　　七百五拾枚
一新　聞　　七　種
　東京報知、大阪朝日、大阪毎日、防長、長州、關門日日、馬關毎日、日日各五拾枚宛

贈呈目錄（平戸及驅逐隊へ）

一茶　器　　壹　組
　司令長官閣下へ
一酒　盃　　七拾八箱
　平戸艦及驅逐艦五隻上長官以上へ貳個入拾參箱准士官以上へ壹個入六拾五箱
一繪葉書　　壹千七拾五組
　仝上准士官以上へ五枚入七拾五組下士卒全員へ參枚入壹千組

以　上

萩　歡　迎　會

▼山屋司令長官動靜四月十五日より同十七日三日間に於ける山屋司令長官一行の行動左の如し

四月十五日　午前雨午後半晴
越ヶ濱の淸遊　午後二時參謀長以下幕僚及各艦長と共に越ヶ濱御茶屋の池に招待す池中の群魚亦潑剌として一行を迎ふるものの如し先着の田中陸相と共に釣を垂れて餘念なく漁獲多くして快感禁せす宴を開きて半日の淸遊を試む

四月十六日　終日快晴
松陰神社參拜、午前十時三十分松陰神社に參拜して松下村塾に遺墨を拜觀し信國椿東小學校長の說明を得て感慨無量なり
志都岐神社參拜、午前十一時四十分志都岐神社に參拜し先着の中川知事と會見し寶物を拜觀したる後晝食の

阿武郡報
第三十三號

饗應を受け吉田商業學校教諭の案内にて天主閣跡に登り往時に於ける藩公の遺德を仰ぎ敬虔の念禁じ難きものあり

歡迎會臨場、午後二時第二艦隊准士官以上全部を壽座に招待し善美を盡せる歡迎會を催す山屋長官及中川知事の挨拶並田中陸軍大臣の所感等ありて盛會を極めたり

四月十七日終日快晴

小學校に於ける講演、午前八時幕僚と共に田中陸軍大臣を旅館に訪ひ出發を見送りたる後明倫小學校に於て教職員兒童一同に對し簡單なる辭を述べて之れを激勵せり

中學校に於ける講演、午前九時萩中學校に到り同校前身萩學校の出身たる勝木霧島艦長の紹介にて生徒に向ひ幾多英傑輩出の此地に於て學ぶは非常の幸福なるを感じ充分勉學努力せんことを望むと奮勵を促し且軍艦を見ての感想を質問し「軍艦を拜觀して其の內部の精巧複雜にして風浪高きにも拘はらず些の動搖をも感せず其の雄大にして愉快なるを感じ將來海軍々人たらんことの希望を抱けり」との明答を得諸君の成功を祈ると深甚なる溫情を殘せり

女學校に於ける講演、午前九時三十分生徒一同に對して懇切なる訓誡を與へて南園舘に入り各種史蹟の說明を聽取し午前十一時歸艦せり岡村郡長小倉歡迎會長其他一行は之れを旗艦に見送れり

▼記念樹、明倫小學校萩中學校、實科高等女學校に於ては山屋長官來校記念樹を植へて永く其の英姿を偲ばしむ

▼軍艦拜觀者、第一日は午前兩午後止みたれど風浪高く輸送困難にして拜觀者漸く二千に過ぎず第二日は終日快晴風浪漸く和ぎ拜觀者一萬二千を算し第三日は終日天氣晴朗海上砥の如く朝來拜觀者引續き前日同樣の數を示し合計二萬七千人以上に及べり

▼陸上の裝飾、棧橋附近に歡迎門を建てて電燈を取付け市中各戶國旗を提げ夜間は提灯を燈して敬意を表し晝夜煙火を揚げて興を添ふ艦隊よりは探照燈を放射して景趣加はる

▼下士卒歡待、第一、第二の兩日各艦共半舷上陸を許さる上陸地點に萩附近の大地圖を揭出し樞要の地に木札を建てて遊覽に便し浴場を開放して隨意入浴せしむ松陰神社、志都岐公園、椿神苑等に休憩所を設け愛國婦人會員詰切り茶菓を供し歎待に努む

▼軍樂隊の演奏、海軍々樂隊は第一第二兩日の午後四時より約二時間明倫小學校內に設けある音樂堂に於て演奏す軍樂隊の來萩は嚆矢にして聽衆校庭に滿ち劉喨たる音聲と美妙なる曲譜とは聽者をして勇躍佳境に入らしむ

▼驅逐艦寄港、大津郡仙崎に寄港せる驅逐艦濱風、磯風天津風、の三隻は本隊に合するため午前十一時萩港に入り菊ヶ濱近く投錨し海上更に一段の壯觀を加へたり

▼艦隊の出港、四月十七日午後一時各艦一齊に拔錨濛々たる煤煙を吐き驅逐隊を右翼に單縱陣を造りて進行を始む此時に當り陸上煙火を連發し數萬の群衆歡聲を擧げ學生團は小旗を振りて名殘を惜しむ岡村郡長小倉歡迎會長其他を乘せ艦隊の出發を待ちし汽艇は艦隊に併行して進むこと數哩禮を交換して最後の袂別を爲す出港瞬間の壯觀は人をして狂喜せしむ斯くて數日間郡民に躍肉湧血せしめたる帝國海軍第二艦隊は茲に一抹の煤煙を殘して水天髣髴の間に沒しぬ

▼活動寫眞の撮影、第二艦隊の寄港の效果をして最も徹底的ならしめんとし岡村郡長等曩に上京の際東京天然色活動寫眞株式會社長賀田金三郎氏と交渉の結果同部撮影部技士の派遣を求め艦隊の動靜及將士を撮影し之に要したるフィルム實に三千五百尺以上に達せり尚是に教育及產業に關する映畫をも加へて同社映寫部技士の出張を求め郡內各町村に於て映寫し大に海事思想の皷吹獎勵と共に通俗教育の普及發達に資すべく盡力中なり

□田中陸軍中將講演

海軍第二艦隊司令長官訪問と展墓を兼ねて歸萩せられたる田中陸軍中將は四月十七日歸途郡內明木、佐々並兩村に於て在鄉軍人分會員並青壯年團員、公務員、學生其の他一般に對し最も懇切にして有益なる激勵的講演ありて多大の感動を與へられたり其の狀況左の如し

場所	講演時間	聽講者				
		軍人分會員	青年團員	壯年團員	學生其他	計
明木村公會堂	三〇分間	一四〇	八〇	一六〇	四六〇	七〇〇
佐々並村小學校	四〇分間	一〇五	七〇	一〇〇	五八〇	八五五

□演武大會狀況

四月三日本郡南部明木、佐々並、川上の三ヶ村在鄉軍人分會及青壯年團聯合して第二回演武大會を佐々並小學校に於て開催せり會場の中央には高く萬國旗を揭揚し演武場來賓席各村會員及團員席一般觀覽者席等諸般の設備遺

憾なし各村共豫定の時刻迄に會場に參集す當日は絶好の天氣にして且節句に相當せるを以て各村より參集する會員及團員出席別表の通にして觀覽人約三千人に及び競技に加はるものは勿論一般觀覽人も意氣頗る軒昂し開會の時刻今や遲しと待ち搆ふる有樣ありき午前八時半に至るや會長内藤少尉開會を宣し軍人勅諭を奉讀し了つて一般觀覽人に觀覽上の注意を與へ次に各審判員の注意あり午前九時より演技に移り銃槍と擊劍と交互に試合をなし午後三時より角力を開始し午後七時各演技共無事に終了せり當日出場人員及其成績別表の如し各村共出演者何れも元氣横溢勇壯を極む由來此の三村は各方面に先を競ひ並進するの狀態あれば演技者相對するに當りては旺盛なる元氣を以て之を衝るも此間に亦言ふべからざる和氣藹々たる情漲れるは實に麗はしきことなり

終了後直に閉會式を擧ぐ先各村に於ける成績を報告し次に銃槍審判富田歩兵中尉擊劍審判福谷明倫訓導講評並將來に於ける注意及激勵を加へ次に賞狀及賞品を授與し特に郡長より各演技の最優勝者明木村藤井榮一（角力）佐々並村野崎筆亮（擊劍）佐々並村坂本多作（銃槍）の三名へ賞狀及賞品を授與し郡長會長の訓話等あり最後に内藤會長の發聲にて陛下の萬歳聯合會の萬歳を三唱して解散せり

出場人員表

村別	種別	總人員	出場人員	總人員に對する出場人員の歩合
明木	軍人會	一六〇	一三〇	七六、七
	壯年團	五〇	二〇	
	青年團	一二〇	一〇三	
	計	三三〇	二五三	
川上	軍人會	一八〇	一〇七	五九、三
	壯年團	七〇	三〇	
	青年團	一五〇	一〇〇	
	計	四〇〇	二三七	
佐々並	軍人會	一四〇	一二五	九二、二
	壯年團	一〇三	九五	
	青年團	一一五	一一〇	
	計	三五八	三三〇	

演技成績表

村名	銃槍（順位）	擊劍（順位）	相撲（順位）
明木	二	二	一
川上	一	三	二
佐々並	三	一	三

◎財務

□町村財務主任集會

四月十三日より同十五日に至る三日間町村財務主任集會を開催す當日研究したる事項左の如し

研究事項

一、縣税課目課額賦課規則及納税者取締規則改正に關する件

◎辭令

財務係長を命す（四月七日）　阿武郡書記　永田恒一

財務係長兼勤を解く（四月七日）　阿武郡書記　繩田誠記

任山口縣阿武郡書記（四月四日）　岩崎芳彦

給月俸拾四圓

財務係勤務を命す（四月四日）　阿武郡書記　岩崎芳彦

山口縣阿武郡農業技手に任す（三月三十一日）　中原信太郎

月俸參拾圓給與

勸業係勤務を命す（四月一日）　阿武郡農業技手　中原信太郎

各通　中原信太郎　坂潜　光永隆信

任山口縣阿武郡技手（四月九日）　熊谷直唯

給月俸壹圓

阿武郡役所雇を命す　熊谷直唯

月俸拾四圓給與（四月十二日）　阿武郡役所雇　熊谷直唯

兵事係附屬を命す（四月十二日）　杉山愛子

阿武郡役所雇を命す

月俸八圓給與（四月七日）　阿武郡役所雇　杉山愛子

庶務係附屬を命す（四月七日）　阿武郡役所雇　神田稔

阿武郡役所雇を命す（四月十二日）

公立高等女學校教諭　中野貞介
十級俸當分七百七拾圓給與（三月卅一日）

公立商業學校敎諭　德永四郎
十一級俸當分六百五拾圓給與（三月三十一日）

□實科高等女學校教員增俸及異動

阿武郡立實科高等女學校

七級俸給與　敎諭　池上岩太郎
七級俸當分四拾參圓給與　敎諭　藤野カ子
八級俸給與　敎諭　堀江ウタコ
八級俸給與　敎諭　奈良小千代
三級俸當分參拾七圓給與　助敎諭　安野章
三級俸參拾六圓給與　助敎諭　長澄市衞
四級俸當分參拾參圓給與　助敎諭　世良ハツ
月俸參拾圓給與　敎諭心得　安永スエ
年手當金六拾圓給與　囑託敎員　上利政三
月手當金拾四圓給與　囑託敎員　田總百合之助
年手當金四拾圓給與　校醫　中村彌兵
加俸月額貳圓五拾錢給與　舍監　堀江ウタコ
加俸月額參圓五拾錢給與　舍監心得　安永スエ
月俸貳拾四圓給與　書記　河村一郞

（以上三月三十一日）

阿武郡立實科高等女學校裁縫科教授を囑託す（四月十五日付）　河村タケヨ
月手當金拾圓給與

阿武郡立實科高等女學校敎諭心得を命す（四月十五日）　上田チヨ
月俸貳拾圓給與

□商業學校教員增俸及異動

萩町立萩商業學校
五級俸當分五拾貳圓　敎諭　吉田祥朔

同校
月俸參拾八圓給與　敎諭心得　守田禎一

同校
四級俸當分參拾壹圓給與　敎諭　岩本正介

同校
月俸拾九圓給與　書記　久保英一

（以上三月三十一日）

萩町立萩商業學校理科教授囑託
月手當金貳拾圓給與（四月七日付）　長井寛治

□小學校教員異動

新任ノ部

新任月日	校名	俸給	職名	氏名
三月卅一日	明倫	九、上	訓導	岡博亮
同	明木	九、上	同	船越通吉
同	篠生	九、上	同	益田省三
同	地福	九、上	同	藤山猛
同	德佐	九、上	同	藤本彦夫
同	育英	九、上	同	北村守一
同	彌富	九、上	同	岩本忠夫
同	多磨	九、上	同	大谷實敏
同	奈古	九、上	同	和田忠良
四月五日	長高	月俸九圓	准訓導心得	矢田部美子
同	下小川	月俸九圓	同	大谷白子
四月九日	小川	十一、上	訓導	堀野禎子
同	椿西	十一、上	同	郡司ハナコ
同	佐々並	九、上	同	下瀨イト
同	長高	九、上	同	高松フジ
同	嘉年	十一、上	同	堀テル
同	地福	十一、上	同	內田ミサホ
同	明倫	十一、上	同	伊藤操
同	福川	十一、上	同	中村順一
同	奈古	十一、上	同	小野梧郞
四月十八日	川上	月俸拾貳圓	准訓導心得	安田ヨシ
同	明木	仝拾貳圓	同	吉屋ハル
同	大井	仝拾貳圓	同	關屋千代
同	三見	仝拾貳圓	同	有田チエ

轉任ノ部

轉任月日	轉任校	俸給	舊任校	職名	氏名
三月卅一日	吉敷郡宮野	十一、下當分五圓	明木	訓導	西村一平
同	明倫	八、上	明木	同	內山勇熊
同	大殿	九、下	明倫	同	河村トミコ
同	生雲	六、上	明倫	准訓導	河內太子一
同	越ヶ濱	八、上	椿東	訓導	道源耕作

同	篠生	七、上	椿東	同	河野ヤヱ
同	高俣	十、上	椿西	同	永富正志
同	明倫	十、下	椿西	同	中津江田鶴子
同	吉敷郡大內	八、下	白水	同	黒川有信
同	佐々並	七、下	白水	同	志賀定彥
同	福川	八、下	三見	同	原昌則
同	白水	九、上	三見	同	岩崎梅一
同	明木	七、下	佐々並	同	伊藤金熊
同	椿東	八、下	川上	同	吉村德輔
同	藏目喜	八、下	篠生	同	田中英作
同	佐々並	六、下	篠生	同	境クラ
同	藏目喜	十、下	生雲	同	高松トメヨ
同	椿西	九、下	藏目喜	同	城市成男
同	育英	八、上	高俣	同	佐々木榮熊
同	生雲	八、上	德佐	同	村瀬貫一
同	佐々並	九、下	福川	同	佐村巖
同	白水	十一、上	福川	同	寺田チヨ子
同	吉敷郡下宇野令	九、上	嘉年	訓導	木原富傳市
同	福田	九、上	紫福	同	藤村荒壽
同	宇田	七、上	奈古	同	金子茂人
同	明倫	八、下	奈古	同	原實亮
同	三見	八、下	奈古	同	三井政一
同	吉部	六、下	宇田	訓導兼校長	森吉祐
同	川上	九、上	福田	訓導	伊藤チカ
同	高俣	七、下	育英	同	山縣良正
同	奈古	七、下	彌富	同	村橋通
同	育英	月俸九圓	下小川	准訓導心得	緒方傚
同	椿東	十一、下	多磨	訓導	福壽キミ
同	彌富	八、上	多磨	同	石橋銀万治
同	見島	三、上	地福	准訓導	大塚晋熊
同	見島	八、上	同	訓導	大塚サメ
同	大津郡宗頭	九、上	三見	同	小枝顯治
四月七日	紫福	六、下	奈古	准訓導	安間哲男
四月十六日	明倫	月俸拾貳圓	高俣	准訓導心得	河村ミト
三月卅一日	德佐	七、下	吉敷郡大歲	訓導	三戸雅乙
同	椿東	六、下	吉敷郡大內	同	堀田斷藏
同	白水	七、下	大津郡瀬戸崎	同	長谷武光
同	彌富	三、下	吉敷郡大殿	准訓導	永嶺英人

增俸ノ部

增俸月日	增俸	現俸	校名	職名	氏名
三月三十一日	九、上	十、上	椿東	訓導	三宅ヒデ
同	五、上	五、下	吉部	同兼校長	伊藤作太郎
同	五、下	六、上	佐々並	訓導	岡藤ヨシ
同	月俸拾參圓	月俸拾壹圓	明木	准訓導心得	村上三郎

退職ノ部

退職月日	校名	職名	氏名
三月三十一日	吉部	訓導兼校長	伊藤作太郎
同	生雲	訓導	小川紀
同	佐々並	同	岡藤ヨシ
同	白水	准訓導	森田巖
同	高俣	訓導	德富光亮
同	嘉年	同	澄川コト
同	小川	准訓導	豐田誠雄
同	多磨	訓導	佐々川正彥
同	藏目喜	准訓導心得	都築ナミコ
同	紫福	同	吉本ヨシ
同	育英	同	岡崎文次
同	佐々並	同	八木信一
同	彌富	同	寺田權一
同	德佐	訓導	三戸ナツ
同	佐々並	准訓導	新谷シヅ
四月七日	椿東	訓導	世良春枝
四月十八日	大島	准訓導心得	津森篤介

□實業補習學校教員異動

新任ノ部

新任月日	校名	俸給	職名	氏名
三月卅一日	明木	兼	訓導	伊藤金熊
同	見島	兼	同	大塚サメ
同	宇田	兼	校長兼訓導	金子茂人
同	吉部	兼	同	森吉祐
同	川上	兼	訓導	伊藤チカ
同	奈古	兼	同	村橋通
同	高俣	兼	同	山縣良正
同	福川	兼	同	原昌則
同	彌富	兼	同	石橋銀萬治
同	佐々並	兼	同	志賀定彥

□小學校醫異動

松井省三

阿武郡小川小學校、上小川小學校、下小川小學校校醫を

囑託す（四月五日付）
年手當金參拾六圓給與　陸軍一等軍醫　村田淸熊

阿武郡椿東小學校越ヶ濱小學校醫を囑託す（三月卅一日付）
年手當金五拾圓給與
椿東小學校越ヶ濱小學校校醫　山本公房

囑託を解く（三月三十一日付）

□小學校教員出向

福川尋常高等小學校
訓導　柴田ミチ

兵庫縣に出向を命す（三月二十六日付）
椿東尋常高等小學校
訓導　三宅ヒデ

熊本縣に出向を命す（三月三十一日付）

□小學校教員休職

明倫尋常高等小學校
訓導　岡博亮

小學校令施行規則第百二十二條第三號に依り休職を命す（四月十五日付）

□圖書館職員異動

吉部村立大典記念吉部圖書館長
伊藤作太郎

館長を免す（三月三十一日付）
阿武郡立萩圖書館
書記　溝部壯六

六級俸給與（三月三十一日付）

一、節制、餘分に飲食すべからす。
一、沈默、自他の利益にならざる事を辨する勿れ、無益の談話は避けよ。
三、整齊、所有の物品は、各其置き場所を定め、豫定の仕事は悉く時間を設くべし。
四、決斷、己の職業は、勉めて之を爲さんと決せざるべからず、既に決心したる事は遲滯なく之を爲さざるべからず。
五、儉約、自他の利益とならざる事に、金錢を費すべからず、一物たりとも之を徒費すべからず。
六、勉强、時間を空しく經過すべからず、常に有用の事にのみ之を使ふべし、無益なる動作は、總て之を禁せざるべからず。
七、眞實、惡しき詐僞を爲すべからず、正直に考へ、眞實に話せ。

參考資料

目次

一、町村立小學校兒童出席歩合表
二、町村立小學校兒童出席順位表
三、青年團寒稽古及夙起實施狀況
四、腸寄生蟲檢便驅蟲狀況
五、山口縣立教育博物館團体觀覽者各郡市別調
六、阿武郡各町村別麥作付反別調
七、規約郵便貯金組合狀況

一、町村立小學校尋常科兒童出席歩合表　（三月分）

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
鈴野川	九九、七一	九九、四〇	九九、五六	一	五
立野	九九、一三	九九、六七	九九、三六	二	一
長高	九九、〇五	九九、三二	九九、一七	三	一一
持坂	九八、五八	九九、八六	九九、一七	四	一七
明木	九八、九五	九九、二〇	九九、〇八	五	四
椿西	九九、三三	九八、〇九	九八、五七	六	三
野戸呂	九九、〇六	九七、六一	九八、四〇	七	一〇
半田	九八、八〇	九八、〇八	九八、四六	八	一二
高瀬	九九、三六	九七、三〇	九八、三三	九	二
福川	九八、四四	九八、〇二	九八、二三	一〇	八
越ヶ濱	九八、五二	九七、九二	九八、二三	一一	六
宇田	九八、四一	九七、九二	九八、一八	一二	九
佐々並	九七、九三	九八、三七	九八、一五	一三	七
篠目	九八、〇二	九七、八四	九七、九五	一四	二三
多磨	九七、七〇	九八、一六	九七、九一	一五	二七
龜山	九八、二五	九七、一四	九七、七四	一六	一八
小川	九七、五九	九七、七六	九七、六七	一七	二四
木間	九九、七五	九五、九三	九七、五七	一八	一三

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
德佐	九七、〇九	九七、八〇	九七、四五	一九	三四
川上	九七、三〇	九七、二四	九七、二七	二〇	二五
下小川	九八、二二	九六、一八	九七、二四	二一	一四
篠生	九六、一七	九八、〇八	九七、一〇	二二	三三
椿東	九七、五二	九六、六五	九七、〇九	二三	一五
相島	九八、二八	九五、五六	九六、九二	二四	三〇
地福	九七、五五	九六、〇八	九六、七九	二五	二八
福田	九六、六四	九六、二二	九六、四四	二六	二六
嘉年	九六、一〇	九六、七四	九六、四四	二七	二一
明倫	九六、九一	九五、七四	九六、三四	二八	二九
三見	九五、七四	九六、七三	九六、二三	二九	一六
紫福	九六、六一	九五、八二	九六、二二	三〇	二二
大井	九六、三七	九五、二八	九五、八八	三一	三五
育英	九六、五三	九五、〇九	九五、八四	三二	三二
彌富	九六、七二	九四、七二	九五、八〇	三三	三八
大島	九六、七一	九四、四一	九五、五三	三四	二〇
高俣	九六、二八	九四、二八	九五、五〇	三五	三七
上小川	九六、三八	九三、七二	九五、三五	三六	一九
藏目喜	九四、〇三	九六、九三	九五、三三	三七	三一
奈古	九四、七二	九三、九三	九四、三三	三八	三六

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
生雲	九三、二〇	九二、一〇	九二、六六	三九	四二
吉部	九四、一三	九〇、四四	九二、一五	四〇	四一
白水	九二、七七	九一、一六	九二、〇五	四一	三九
見島	九四、一二	八八、五二	九一、四三	四二	四〇
本月郡平均	九四、八七	九四、〇五	九四、四六	—	—
前月郡平均	九六、一三	九五、三一	九五、七六	—	—

一、町村立小學校高等科兒童出席步合表

三月分

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
明木	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇	一〇、〇〇〇	一	六
宇田	九九、〇二	九九、五四	九九、三三	二	一
佐々並	九八、四五	九九、八一	九八、九九	三	八
福田	九八、五二	一〇〇、〇〇	九八、八一	五	九
三見	九九、一三	九八、二八	九八、八八	四	一〇
紫福	九八、七二	九八、八九	九八、七八	六	七
椿西	九九、七〇	九七、五九	九八、七六	七	四
篠生	九八、〇六	九九、五五	九八、七三	八	一一
彌富	九八、一〇	一〇〇、〇〇	九八、五六	九	一四
川上	九八、九一	九七、五五	九八、二七	一〇	一八

學校名	男	女	計	順位 本月	順位 前月
明倫	九八、一〇	九八、四五	九八、二五	一一	一三
大井	九八、八九	九七、一〇	九八、二五	一二	一七
嘉年	一〇〇、〇〇	八八、〇〇	九八、二三	一三	二
多磨	九七、七一	九九、三八	九八、一九	一四	二一
椿東	九八、〇五	九八、〇七	九八、〇六	一五	一二
白水	九八、二三	九七、六〇	九七、九七	一六	一九
福川	九七、四六	九八、二九	九七、七六	一七	二三
奈古	九六、四九	九九、二三	九七、五二	一八	三
德佐	九九、〇八	九四、七〇	九七、四〇	一九	一五
高俣	九六、四二	九七、五二	九六、八〇	二〇	二六
地福	九六、三五	九八、八九	九六、四五	二一	五
小川	九五、九一	九六、八九	九六、三三	二二	二四
生雲	九四、三一	九九、二二	九五、九六	二三	一六
育英	九六、四七	九四、四一	九五、七八	二四	二〇
吉部	九三、九九	九六、七七	九四、九四	二五	二二
大島	九〇、九七	一〇〇、〇〇	九一、九九	二六	二五
見島	七七、一四	九二、五九	七八、七四	二七	二七
本月郡平均	九三、二五	九四、〇四	九三、三四	｜	｜
前月郡平均	九六、六四	九六、九九	九六、七六	｜	｜

二、町村立小學校尋常科兒童出席順位表

大正七年度

學校名	四月	五月	六月	七月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	通年順位
明倫	三一	二一	一八	二四	一六	二一	一〇	一三	二四	二九	二八	二三
椿東	三二	二〇	一六	一六	一〇	二四	一一	一六	二三	一五	二三	一七
越ヶ濱	一〇	五	五	一〇	一七	一三	一七	一〇	一七	六	一一	九
椿西	一	一	三	二	一	一	三	一	二	三	六	一
白水	三六	三〇	三〇	三四	三五	三八	三二	三二	三七	三九	四一	三五
木間	二二	二九	二九	三二	二三	二七	一三	九	一二	一三	一八	二二
三見	二六	二二	一四	一二	一一	七	二一	一二	一三	一六	二九	一五
明木	五	三	四	一	二	二	一	二	一	四	五	二
佐々並	一二	一〇	九	九	一二	一七	四	五	八	七	一三	五
長高	二	九	一五	二八	七	六	一二	二二	四	二一	三	八
川上	三〇	二四	一	一九	一五	一四	二五	二三	二一	二五	二〇	一九
高瀨	四	七	二	四	四	三	二	三	三	二	九	三
野戸呂	一三	二	八	六	九	九	二六	四	二〇	一〇	七	七
立野	三	二六	一〇	三	一三	一二	五	八	六	一	二	四
篠生	九	一七	二八	三〇	三〇	一一	九	一四	一一	三三	二二	一八
篠目	一六	一一	七	五	一九	二六	七	一五	一四	二三	一四	一二
持坂	二一	二八	二七	二七	二六	二三	一五	一八	一六	一七	四	二〇
生雲	四一	三八	四二	四一	三九	四二	三〇	三一	四〇	四二	三九	四一

學校名	四月	五月	六月	七月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	通年順位
藏目喜	四〇	四二	三八	三五	三六	三五	二四	三八	三八	三一	三七	三八
地福	二九	三九	三九	二五	二八	三三	三五	三九	三〇	二八	二五	三三
德佐	三五	三一	三一	三六	三四	三六	三七	三三	三一	三四	一九	三四
鍋山	二八	一六	一一	二六	二二	二五	一六	二七	一九	一八	一六	二一
嘉年	一七	四一	三六	二二	三三	三一	二八	二九	二八	二一	二七	三一
高俣	四二	三四	三五	三八	四二	三九	二二	三六	三五	三七	三五	三九
吉部	三七	三七	二二	四二	四〇	三七	三四	四一	四一	四一	四〇	四〇
福川	二三	一四	二三	二一	五	五	二七	二一	九	八	一〇	一三
牟田	一八	一五	二一	一八	二〇	八	二三	一一	二六	一二	八	一四
紫福	二七	二七	二六	二三	二一	一八	三〇	二六	二五	二二	三〇	二九
大井	三三	三二	三七	二〇	八	一六	一八	二〇	三二	三五	三一	三〇
奈古	三四	三五	四〇	四〇	三七	三四	二九	三五	三四	三六	三八	三七
宇田	一四	六	六	七	六	三〇	三三	二五	五	九	一二	一一
福田	一一	一八	一二	一七	三一	二〇	三六	三七	三六	二六	二六	二七
育英	二四	二三	二四	三一	二七	二三	一四	一七	二七	三二	三二	二八
彌富	三九	三六	三四	三七	三二	二九	三八	三四	三九	三八	三三	三六
鈴野川	一五	一九	一三	八	一四	四	八	一九	七	五	一	六
小川	八	一二	二五	一五	二五	一九	四一	四〇	二九	二四	一七	二五
上小川	一九	一三	一九	一四	二四	三二	四〇	二四	二二	一九	三六	二六
下小川	二五	四	二〇	三三	二九	二八	四二	二八	一〇	一四	二一	二四

學校名	四月	五月	六月	七月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	通年順位
多磨	七	八	一七	一三	一八	一五	六	七	一八	二七	一五	一〇
大島	六	四〇	三三	一一	三	一〇	一九	六	一五	二〇	三四	一六
相島	二〇	二五	三二	二九	三八	四〇	二〇	三〇	三三	三〇	二四	三二
見島	三八	三三	四一	三九	四一	四一	三九	四二	四二	四〇	四二	四二

二、町村立小學校高等科兒童出席順位表

大正七年度

學校名	四月	五月	六月	七月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	通年順位	全体順位
明倫	二四	九	九	一五	一六	一〇	二	三	六	一三	一一	九	一四
椿東	七	一三	一三	九	九	一二	七	二〇	一五	一二	一五	一三	五
椿西	二	二	二	二	一	六	三	一	二	四	七	一	一
白水	一三	一七	一五	一	一〇	一七	二一	八	一六	一九	一六	一五	一七
三見	一四	八	一一	二二	一七	一四	一〇	六	一一	一〇	四	一〇	一〇
明木	四	一二	一二	三	三	四	一	四	一	六	一	二	二
佐々並	一〇	五	五	六	二四	二二	四	五	五	八	三	六	六
川上	一六	二二	二〇	一〇	一八	一六	一九	一六	一九	一八	一〇	一八	三
篠生	二〇	一	八	一六	一一	五	五	二二	二一	一一	八	一一	七
生雲	二五	二四	一六	二六	二三	二五	一六	二五	二四	一六	二三	二五	二三
地福	二二	二五	一八	七	一四	一九	二〇	二六	七	五	二一	一九	二二
德佐	一八	二一	一七	二五	一五	二四	二五	二四	一四	一五	一九	二四	一九

學校名	嘉年	高俣	吉部	福川	紫福	大井	奈古	宇田郷	福賀	須佐	彌富	小川	田万崎	六島	見島
四月	五	八	一九	二三	一二	六	一五	二一	九	一七	一	一一	三	二六	二七
五月	一一	一五	一八	二三	四	一六	一〇	六	一九	七	三	一四	二〇	二七	二六
六月	三	二一	二四	二五	六	二二	二三	一〇	四	七	一	一九	一四	二七	二六
七月	四	一二	二四	二〇	一四	二三	一七	一一	一三	一八	五	二一	八	一九	二七
九月	四	二五	一九	二〇	六	一三	七	二	五	二三	一二	二一	八	二六	二七
十月	八	二六	二〇	九	一八	七	二一	二	三	一一	一	一三	一五	二三	二七
十一月	一四	一二	一三	一七	一八	一一	一五	二三	八	九	二二	二六	六	二四	二七
十二月	九	一九	七	二三	一三	一二	一四	二	一七	一五	一〇	一八	一一	二一	二七
一月	三	二三	二二	二五	八	九	二〇	四	一八	一三	一二	一七	一〇	二六	二七
二月	二	一六	二二	二三	七	一七	三	一	九	二〇	一四	二四	二一	二五	二七
三月	一三	二〇	二五	一七	六	一二	一八	二	五	二四	九	二三	一四	二六	二七
通年順位	三	二一	二二	二三	八	一四	一六	四	七	一七	五	二〇	一二	二六	二七
全体順位	一五	二五	二六	一一	一二	二〇	二四	四	一六	二一	九	一三	八	一八	二七

三、青年團寒稽古及夙起實施狀況

町村名	全團員數	寒稽古			夙起		其ノ他
		種別	參加團員數	實施日數	實施要項	參加團員數	
萩	四五〇	撃劍	一五、三三	七	ー	ー	

椿郷東分	一二八	撃劍	四六、八八	一七	季節	四六、七〇	毎月一回相撲（但シ雨天若クハ補習學校開設ノ際ハ之ヲ缺クコトアリ）
椿	七四	撃劍 体操	五四、九〇	一〇	季節	八七、八四	
山田	一二〇	撃劍	二五、〇〇	七	毎週二回	三五、〇〇	
三見	二〇八	撃劍	一三、〇〇	七	期間	四〇、〇〇	毎年四、十一、十二、一、二三月六ケ月毎週一回撃劍會其ノ他六ケ月ハ毎月一回毎年三回軍隊的教練
明木	一〇一	撃劍	九三、三六	一四	季節	八五、八六	
佐々並	一〇一	撃劍	七八、二二	七	一支部ニ於テ季節ヲ限リ七日間	（一支部）八八、二三	撃劍柔道体操ハ補習學校正課トシテ毎月一回之ヲ開ク
川上	一三九	撃劍	五六、一五	一四	ー	ー	
篠生	八二	撃劍	四三、七〇	一〇	毎月一回 十一支部	三九、一一	
生雲	一四九	撃劍	一九、五〇	九	ー	ー	
地福	一〇〇	撃劍	二九、六七	一二	期間	三八、〇〇	毎月一回体操ヲ練習ス
德佐	一四三	撃劍	五六、六四	九	毎月一回 十六支部	五六、六四	
嘉年	七四	撃劍 柔道	二六、七二	二三	毎月一回	六二、四二	柔劍道講習會ヲ五日乃至一週間開催セリ
高俣	一二一	撃劍 柔道	六六、一一	七	毎週二回	六六、一一	
吉部	一〇二	撃劍 柔道	二一、九五	七	ー	ー	
福川	二五二	撃劍 柔道	五〇、〇〇	二〇	季節	六支部	
紫福	一二八	撃劍	三六、八七	七	季節	三六、七八	
大井	一六〇	撃劍 柔道	三六、八〇	一四	ー	ー	
奈古	二五五	撃劍	三七、八八	九	一支部ニ於テ毎月二回施行	（一支部）一〇、五七	
宇田郷	九二	撃劍	二六、一〇	一四	季節	五六、五二	

町村名	全團員數	寒稽古 種別	寒稽古 參加團員數	夙起 實施日數	夙起 實施要項	夙起 參加團員數	其ノ他
福賀	一一四	体操 撃剣	六四、〇四	一二	季節	五九、六五	每月一回体操、徒競爭、登山等ノ全部若クハ一部ヲ行フ
須佐	三〇二	撃剣	一三、五〇	七	一	一	
彌富	一四三	体操	七六、一〇	六	季節	八〇、五二	
小川	二〇六	一	一		季節	七七、六七	
田万崎	二一九	撃剣 体操	四九、七三	一六	季節	(十六支部中)四支部	
六島	一〇八	撃剣 柔道	二二、五〇	一六	一	一	
見島	一	一	一	一	一	一	
合計	四〇七一	一	四二、四二	二八一	一	五〇、九三	

四、腸寄生虫檢便驅虫狀況

學校名	檢査期日	在籍生徒數	檢便數	寄生虫卵保有者數	檢査數ニ對シ同上保有者百分比	驅虫濟數
郡立實科高等女學校	自二月十九日至三月四日	二九三	二二七	六六	二九、〇七	一
萩商業學校	自二月十三日至二月二十二日	一〇四	一〇一	四八	四七、五二	一
私立萩婦人會修善女學校	自三月一日至同十日	一〇九	九八	五一	五二、〇四	一
明倫商業補習學校	二月十五日	一二	一〇	二	二〇、〇〇	一
明倫	自二月二十日至同二十三日	二、三〇〇	五五二	二四三	四四、〇五	一

椿東	三月七日ヨリ目下檢査中	一、〇八一	九五	四一	四四、六三	一
三見	自二月十日至同廿三日	五九二	一六四	六七	四〇、五三	一
明木	自二月十五日至同二十五日	四二〇	四〇六	二四〇	五九、一二	一
佐々並	自二月十七日至同廿四日	三六七	三一六	二八七	九〇、八二	一
長高	同	七四	六二	五八	九三、〇二	一
高瀬	自十月廿五日	一四一	一四〇	一二六	九〇、六三	一
地福	自二月十八日	四二三	二四	一八	七七、一四	六
吉部	自二月五日至同十四日	三九〇	三一五	二〇六	六六、七二	三
彌富	自二月廿三日至同廿四日	二六九	二九	一六	五七、四四	一
見島	二月二十一日	四〇〇	一二三	七〇	五六、五〇	一
合計		六、四五七	三、二二六	一、三七二	六一、六四	一〇

備考　腸寄生蟲驅除のことは其筋の通牒により施行すべく督勵せるも驅除方法講究の爲め未了のもの尠しとせず本調査は三月十日調査にして其後に於ける驅除成績を掲記せず

五、自大正七年四月至同八年三月 山口縣立教育博物館團体觀覽者各郡市別調

郡市	大島	玖珂	熊毛	都濃	佐波	吉敷	厚狹	豊浦	美禰	大津	阿武	下關	計
小學校兒童	一	一三二	一四三	五〇五	五四四	二、六三五	一、三〇二	四八一	一一七	四三五	七四二	一	六、六三五
町村實業補習學校生徒	一	一	一	一	二五	一	一	一	一	一	三〇	一	五五

郡市	山口感化院院生	中等學校生徒(男)	同(女)	山口縣師範學校講習員	青年團	巡査教習所員	町村農會視察團	町村吏員視察團	郡會議員視察團	商工會視察團	銀行員視察團	會社員視察團	實業視察團	山口縣農會講習員視察團	計
大島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
玖珂	—	八一	三〇	—	一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二五九
熊毛	—	五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一九六
都濃	—	一〇五	—	—	—	—	五二	—	—	—	—	一〇	—	—	六六八
佐波	—	—	—	—	六四	—	—	—	—	一五	—	—	—	—	六四八
吉敷	三	三〇二	三九	二〇五	一四五	二七	—	—	三	—	—	—	四〇	一六〇	三、八九四
厚狭	—	—	一三九	—	九	—	四六	—	—	—	—	—	—	—	一、四八六
豊浦	—	—	—	—	七六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五五七
美禰	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一二八
大津	—	二八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七三
阿武	—	五九	一五	—	九七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	九四三
下關	—	—	八九	—	—	—	—	—	—	—	四〇	—	—	—	一三九
計	三	六二四	五八九	二〇五	四一九	二七	四六	五二	二二	一五	四〇	一〇	四〇	一六〇	八、九八一

附 他府縣視察團内譯

一、宮崎縣視察團　十六人
一、京都府視察團　百四十五人
一、島根縣鹿足郡小川村小學校兒童　二十五人
一、同縣同郡津和野小學校兒童　百　人
一、同縣美濃郡安田村小學校兒童　二十二人
一、同縣同郡中西村小學校兒童　八人

六、阿武郡各町村別麥作付段別調

町村名	大正七年實收作付反別	大正八年作付反別	前年對比增減步合
萩町	七四、〇反	五〇、〇反	增 六分
椿東村	一二三、〇	一三五、三	同 一割一分
椿村	五六、二	五七、五	同 二分三厘
山田村	一〇九、六	一二〇、五	同 一割
三見村	一四八、三	一五〇、三	同 一分
明木村	七五、九	八三、五	同 一割
佐々並村	三七、八	四六、〇	同 二割
川上村	六五、〇	七一、五	同 一割
篠生村	四八、七	六三、三	同 三割
生雲村	九五、三	一〇二、七	同 八分
地福村	九〇、五	一一七、五	同 三割
德佐村	一六八、一	二二六、〇	同 三割九分
嘉年村	三二、九	六〇、八	同 八割四分
高俣村	一八五、三	二二五、〇	同 二分一厘
吉部村	一三三、〇反	一五二、〇反	增 一割四分
福川村	一九九、一	二〇〇、二	同 一分
紫福村	一四六、〇	一六〇、〇	同 九分一厘
大井村	一九六、八	二〇〇、七	同 二分
奈古村	一八三、七	二一五、七	同 一割七分
宇田郷村	八二、八	九一、一	同 一割
福賀村	一三一、〇	一七〇、〇	同 三割
須佐村	二四四、〇	二六二、五	同 七分五厘
彌富村	一五九、〇	一六八、〇	同 五分七厘
小川村	一五六、七	一四一、〇	同 一割
田万崎村	八〇、九	八〇、九	同
六島村	三六一、一	三六六、〇	同 九厘七毛
見島村	一五一、〇	一五一、〇	同
合計	三、五三五、〇	三、八六八、〇	同 一割〇八厘

七、規約郵便貯金組合狀況

（大正七年二月現在　廣島郵便局調査）

縣郡市名	組合數	人員	貯金高	組合平均人員	同上一人平均額	市町村數	一市町村平均高 組合數	一市町村平均高 金高
下關	四六	三、二三六	七九、三三六円	七〇	二四、五一三円	一	四六、〇〇	七九、三三六円
豊浦	六六	一、〇三九	八、三七三	一五	八、〇五八	三一	二、一三	二七〇
厚狭	六五	二、七一八	一七、六八九	四一	六、五〇七	一六	四、〇六	一、一〇六
大津	六六	一、七六五	九、一四三	二六	五、一七九	九	七、三三	一〇二
美禰	八一	一、一八六	五、六三三	一三	四、七四九	一三	六、二三	四三三
阿武	二四三	三、四九七	一八、九五八	一四	五、四二四	二七	九、〇〇	七〇二
吉敷	一三九	五、〇八四	六三、一一七	三六	一二、四一四	二〇	六、九五	三、一五六
佐波	五三	二、七七三	二六、七八三	五〇	九、六五八	一四	三、七八	一、九一三
都濃	六五	二、二八〇	九、九三二	三五	四、三五六	二二	二、九五	四五一
熊毛	一五一	二、七六六	三三、一〇四	一八	一一、六〇六	二六	五、八〇	一、二三五
玖珂	六一	二、三八三	三一、〇一六	三八	一三、〇一五	三五	一、七四	八八六
大島	四六	六八八	九、五八四	一四	一三、八三〇	一二	三、八三	七九九
計	一、〇八二	二九、四一四	三一一、六五八	二七	一〇、五九五	二二六	四、七九	一、三七九
廣島縣	九三二	三一、二五七	二七一、四九二	三三	八、六八五	四三二	二、一五	六二八
愛媛縣	五〇二	二一、八九九	一三〇、七二四	四三	五、九六九	二九七	一、六九	四四〇

阿武郡報第三十三號　大正八年四月十五日發行　◎大正六年十二月十九日第三種郵便物認可　◎毎月一回十五日發行　一部代價金拾錢